

10 高知県南国市白木谷小学校区

活動

白木谷自治会が中心となって、南国市役所、有識者と連携しながら、土砂災害を学び、危険地域を歩いて確認しながら、土砂災害時の住民としての役割を考えるワークショップを実施。

地区の概要

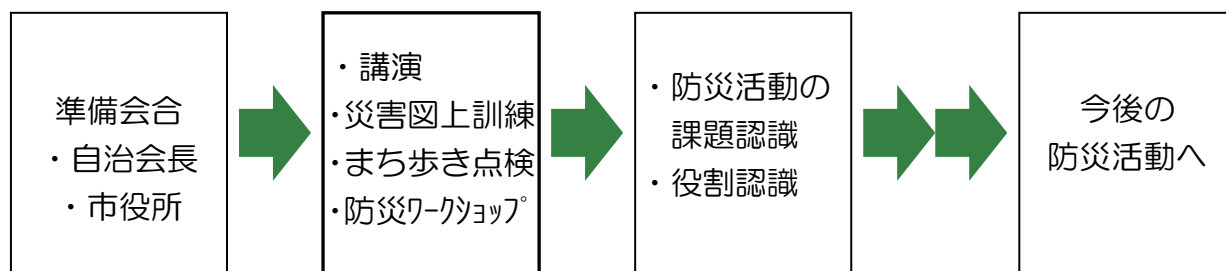
高知県南国市白木谷校区は、南国市の北部の山間地で、南国インターチェンジ南部より白木谷川沿いに広がる山間集落地で、谷あい集落で避難がしづらい地域であるとともに、県が指定する土砂災害警戒区域がほとんどの集落にかかっている現状があります。

同校区では、自主防災組織の結成がされ、防災倉庫の設置や防災訓練の実施などがされているとともに、文部科学省の「地域ぐるみの学校安全推進モデル事業」を実施し、小学校を中心とした地域での防災への取り組みを進めています。

活動までの土台づくり

自主防災会での取組や「地域ぐるみの学校安全推進モデル事業」の実施などが進められていますが、地域全体での防災活動への取り組みに展開していく必要があり、「防災隣組」の育成促進とあわせて、災害図上訓練 DIG とまち歩きなどを実施することとしました。

本事業では、多くの参加者が得られ、上記の取り組みで地域の現状を再認識する場を設けるとともに、防災に関する意見交換をする場を持つことで、今後の防災活動への課題の洗い出しと、役割の認識ができました。

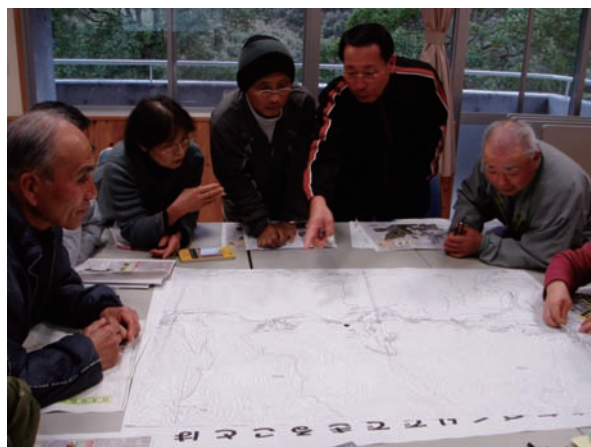


活動の様子

◆有識者によるレクチャー



◆災害図上訓練 DIG



◆土砂災害警戒区域のまち歩き



◆自主的な活動に向けた意見交換



活動のヒント

- ★身近に迫る災害リスクながら地域の人々の理解が途上であると見込まれる場合、週末などにまとまった時間を取り、「一気に意識を広める」機会を設ける工夫が考えられます。
- ★地図上での危険性の理解と、まち歩きによる理解を組み合わせ、理解を深めることが重要です。
- ★有識者のコーディネートにより、専門的見地から自分のまちを解説してもらうことも重要です。
- ★防災活動で役割分担を考えることで、“自分”の行動を意識し、自助・共助の実践的な行動を意識してもらうことが重要です。